

東日本大震災復興支援

News



「3.11 からの出発」

小友小学校 18 回目の訪問

2016年10月24日に、陸前高田市の小友小学校を訪問しました。松岡享子名誉理事長、小関知子常務理事、渡部伸子理事、内田直子の4名と、岩手県ご出身の細川律子さんにもご同行いただきました。今回は細川さんから寄せられた訪問記を掲載いたします。

小友小学校の子どもたちに賢治のお話をしてやってくださいという松岡先生からのお誘いをいただいて、学校訪問にご一緒させていただきました。

私は岩手県一戸町生まれ。自己紹介で「実は私が卒業したのも、小友小学校（現在廃校）なのです」というと、子どもたちから「知ってる、一戸に行ったことある！」と元気な声があがり、びっくりしました。今は石川で「はまなす文庫」をしていることを話して、「はまなす」と「小判草」を見せると、これも「知ってる！ 近くにある」とのこと。たしかに学校前の土手にちゃんと植わっていました！

こうしてすぐにうちとけて、ふだん訪ねている石川の小学校の子どもたちにすると同じようにお話することができました。今回は、3、4年生には「注文の多い料理店」と岩手の昔話「おぼさりてえ」を、5、6年生には「虔十公園林」を選びました。そして、大震災のあと、石川の子どもたちが岩手の子どもたちのことを心配しながら賢治を読んでいることを伝え、その気持ちをこめて「雨二モマケズ」を朗読しました。

訪問から帰った後、今度は石川の子どもたちに小友小学校のことを話しています。もしかして、将来、陸前高田で働く子もいるかもしれません。石川と岩手のつなぎ役が少しできたことを嬉しく思っています。

小友小学校の帰り、「ちいさいおうち」に立ち寄りました。入口から温かい本の世界が広がり、文庫のような雰囲気が漂っていて、初めてなのに何度も訪ねているような気持ちになりました。司書の中井さんに読書をすすめるいろんな工夫も見せてもらい、子どもたちが“本の楽園”と呼んで親しんでいるのがよくわかりました。これまでここでどれだけたくさん子どもたちが、本に囲まれ、安らぎを得てきたことでしょうか。それがしみじみと伝わってくる図書館でした。「3.11 からの出発」活動にお誘いいただき、いつかぜひ訪ねたいと願っていた陸前高田行きが叶えられたことを心から感謝しています。

（石川県はまなす文庫 細川律子）



小友小学校訪問は、来年度も続きます——そう申し上げますと、校長先生は、「いやあ、ありがたい！」と、大声をあげて喜んでくださいました。今年で打ち切りになる震災復興事業が多いからでしょう。最初に訪れたとき1年生だった子どもたちも今年ももう6年生。もう少しこの子たちの顔を見つづけたいと思います。 （松岡享子）